

股関節

股関節は、骨盤寛骨臼と大腿骨骨頭からなる臼状関節（球関節の一種）であり、大腿骨骨頭は2/3が臼蓋で覆われ、骨性支持が安定している。

また運動軸は多軸性で屈曲、伸展、内転、外転、内旋、外旋の運動が可能である（図1、2）。これらの運動は大腿骨骨頭と膝関節の中心を結んだ運動軸に沿って行われるが、この運動軸は垂直軸に対して約3°、外方に傾いている。これは大腿骨骨頭頸部と大腿骨骨

幹部が頸体角として120～130°の角度を持ち、骨頭が上内前方を向いているからである（前捻角、図3）。

さらに股関節の運動に関与する筋肉は、一般的な求心性収縮とした場合、前面にある大腰筋、腸骨筋が屈曲筋として働く。伸展運動には大殿筋、ハムストリングスが関与する。また外側にある中・小殿筋が外転筋、内旋筋として、骨盤（恥骨、坐骨結節）から大腿骨、脛骨に停止している内転筋群、薄筋が内転筋

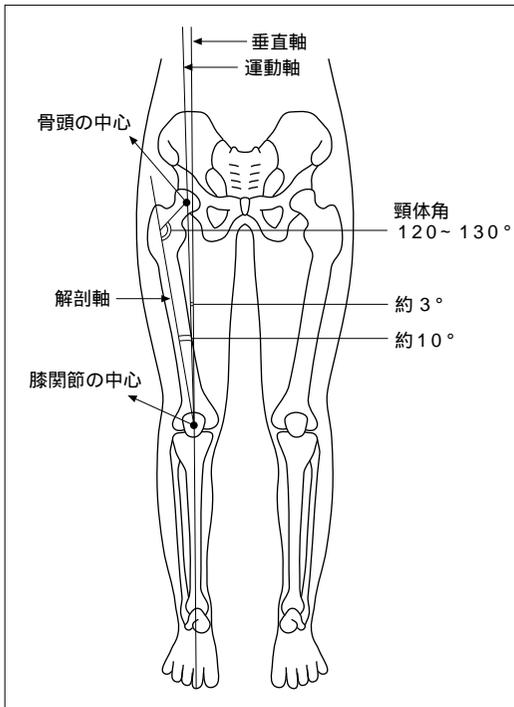


図1 解剖軸と運動軸

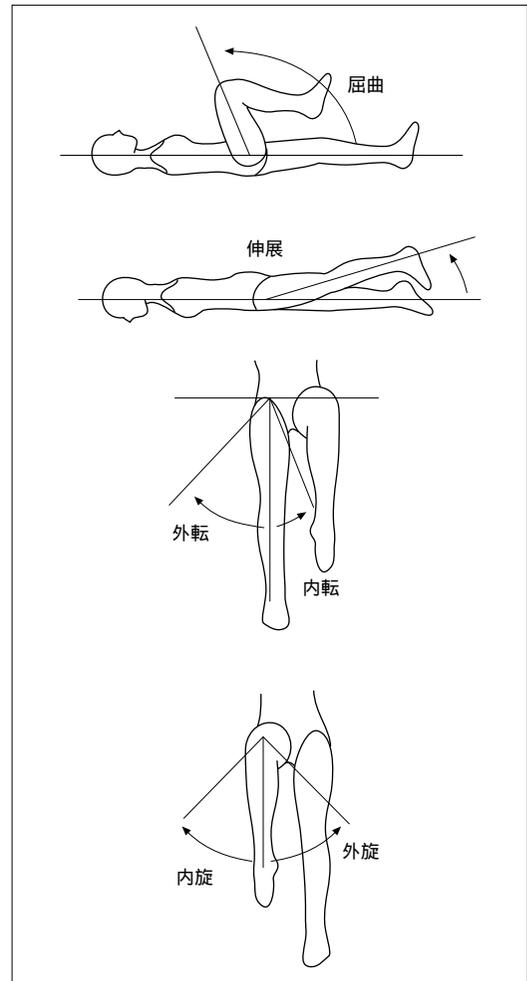


図2 股関節の動き

として働く。外旋運動の際には股関節後面深層部にある外旋六筋（外・内閉鎖筋、上・下双子筋、大腿方形筋、梨状筋：p.82図1参照）が収縮する。

骨盤

骨盤は下位脊椎である仙骨と左右に張り出した腸骨、前方部の恥骨、下方の坐骨で骨性の環状構造（骨盤輪、図4）形成している。左右の仙腸関節と恥骨結合に関節はあるがそ

の可動性は少ない。しかし骨盤、仙腸関節は軽度な前傾、後傾の動きがあり、体幹屈曲、伸展時に重要な働きをなす。腰痛では仙腸関節の痛みが出現することも多く、この関節の動作上の動きに留意すべきである。

なお寛骨は腸骨、坐骨、恥骨で構成された総称である。

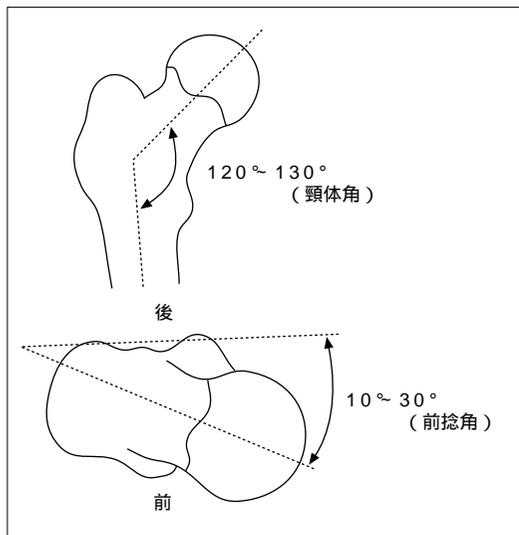


図3 大腿骨の頸体角と前捻角

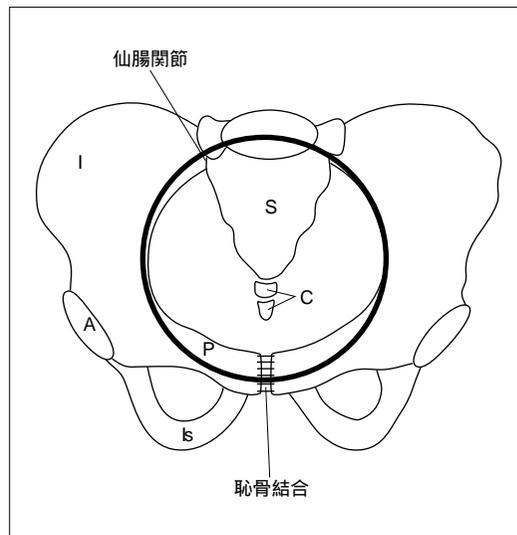


図4 骨盤輪